

## 平成18年度機器・分析技術研究会開催にあたって

技術センター 理学部等部門

藤高 仁・石飛 義明・藤原 雅志

### <はじめに>

近年の科学技術の急速かつ多様な発展の下で、大学・高等専門学校及び共同研究機関における教育・研究に係わる技術職員の役割は、益々重要になっている。その中で技術職員自らの技術向上や知識の習得手段としてさまざまな技術研究会に参加することがあり、その技術研究会の一つとして機器・分析技術研究会が開催されている。

平成18年度に広島大学において、この機器・分析技術研究会が開催される予定であるため、開催に向けた準備を行わなければならない。そこで可能な限り多くの方々にご協力をいただくため、当技術研究会の略歴や概要等をご周知いただき、また平成16年9月16日・17日の2日間に渡って佐賀大学で開催された平成16年度機器・分析技術研究会に視察を兼ね参加したので併せて報告する。

### <機器・分析技術研究会の略歴>

1976年2月に開催された「第一回分子科学研究所技術研究会」が、技術職員を対象とした研究会の始まりといわれている、その後大学共同利用機関である分子科学研究所・高エネルギー加速器研究機構・核融合科学研究所の3機関で毎年持ちまわり開催されてきた「技術研究会」へと発展した。

1996年3月（平成7年度）、分子科学研究所技術課主催で開催された技術研究会にそれまで無かった分野「化学分析技術」が設定され、5分科会（装置技術、回路技術、低温技術、電子計算機技術、化学分析技術）で開催された。

1996年11月（平成8年度）、開催地の事情に

より各分科会が分散開催され、化学分析技術分科会は「平成8年度技術研究会第5分科会『機器分析研究会』」として大阪大学産業科学研究所にて100名規模で開催された。

その後も継続して機器分析技術研究会の開催を望む意見が多く、技術研究会の1分科会として開催されるよう協議を行ったが、高エネルギー加速器研究機構・核融合科学研究所が物理系の研究所であることから機器分析技術を含めた総合開催が危ぶまれ、1997年（平成9年度）より毎年国立大学持ち回りの単独開催で行われるようになり、1998年（平成10年度）に名称を「機器・分析技術研究会」と定め今日に至っている。

### <機器・分析技術研究会の概要>

本技術研究会は主に各大学共同利用機関法人、国立大学法人及び国立高等専門学校機構に所属する技術職員を対象としている。機器分析に携わる技術職員が関係するであろう発表内容となっており、装置開発技術、試料製作技術、組織運用方法、施設管理方法、学生指導方法など多岐に渡っている。そのため多くの技術職員が発表、聴講できる技術研究会となっている。

発表の形態は口頭発表とポスター発表があり、件数は毎年増加する傾向にある。2日間の開催日程では口頭発表件数の上限が20件前後であるため、研究会の開催にあたり工夫が必要となる。

参加人数は年度によりばらつきはあるものの、この10年間で確実に増加し近年では160名前後で開催されている。

当技術研究会の後援組織として地域代表者会

議がある。地域代表者会議では開催希望大学に基づく地域等を考慮した調整や開催予定大学へのアドバイスを行っている。

#### <広島大学での開催予定に至る経緯>

理学部等部門 藤高技術員が平成9年度より中国地区地域代表者に選出されており、地域代表者会議において中国地方での開催を要望された。平成13年3月に分子科学研究所にて行われた地域代表者会議に出席するにあたり、当時藤高が所属した技術組織「理学部等技術部」の職員に広島大学での機器・分析技術研究会開催について協議していただいたところ賛同を得たので、平成18年度広島大学にて当技術研究会を開催したいとの意向を地域代表者会議で告げ承諾された。

しかし本年度より技術センターが発足し、全技術職員は技術センター所属となった。理学部等部門単独での開催は予算確保等で困難であることが予測されるため第7回企画調整委員会にて協議していただいた結果、技術センター主催で機器・分析技術研究会を開催することの承認を得た。

#### <機器・分析技術研究会開催目的>

- ・ 技術センターのさらなる組織力向上
- ・ 技術センター学内外への認知度向上
- ・ 活動実績
- ・ 全国技術職員との交流・情報交換
- ・ 個人の技術及び知識の習得に貢献

#### <平成16年度機器・分析技術研究会参加報告>

##### 1. 期間・場所

期間：平成16年9月16日・17日

場所：佐賀大学

##### 2. 参加者等

全国の大学共同利用機関法人、国立大学法人及び国立高等専門学校機構に所属する技術職員  
参加者約200名。

##### 3. 研究会内容

分析技術及び装置開発、施設・物品管理技術、

学生指導方法、環境・福祉機器の開発、施設紹介、等の発表と共に情報交換を行う。

#### 4. まとめと感想

今回佐賀大学における機器・分析技術研究会に参加するにあたり大きく三つの目的があった。

- ・ 個人の技術及び知識習得
  - ・ 全国の技術職員との交流
  - ・ 平成18年度広島大学で機器・分析技術研究会を開催するための情報収集
- である。

##### (1) 個人の技術及び知識習得

個人の技術習得については、同じ装置又は同じような環境で仕事をしている技術職員の発表を聴くことで、自らの職務に対する参考となった。

また問題解決能力を高めるために日々の努力と創意工夫が大変重要であることを再認識するとともに、さまざまなことに興味を持ち挑戦することが必要に感じられた。

##### (2) 全国の技術職員との交流

職務に関する情報の他、組織運用などのさまざまな情報交換を行った。

##### (3) 平成18年度広島大学で機器・分析技術研究会を開催するための情報収集

平成18年度広島大学で機器・分析技術研究会を開催するための情報収集を行った。

#### (会場への案内)





正門に看板が掲げられ会場への道順に案内用の矢印が設置されていた。

(受け付け)



受付時に報告集等の配布を行っている。

参加申し込み時に参加費を郵便振込みにて支払うシステムで、多くの参加者は申し込み後、参加費等を事前に振込んでいるため研究会当日に現金を扱うことが少なく受付作業がスムーズに行われていた。当日参加受付も行っているが、参加費を郵便振込より若干高く設定していることからほとんど無かったとの話であった。

(会 場)



約190名程度着座できる講義室を会場にしていたが、席が一杯になっていた。



司会と座長席、奥のモニターにて公演時間を表示していた。ほとんどの発表者が PowerPoint を利用していたが、予備機材として OHP プロジェクタも用意されていた。

(挨拶)



開催にあたり西河貞捷理工学部長より、開会のご挨拶とご自身の経験に基づいた教育研究の現場における技術職員の存在意義についてお話があった。

(発表風景)

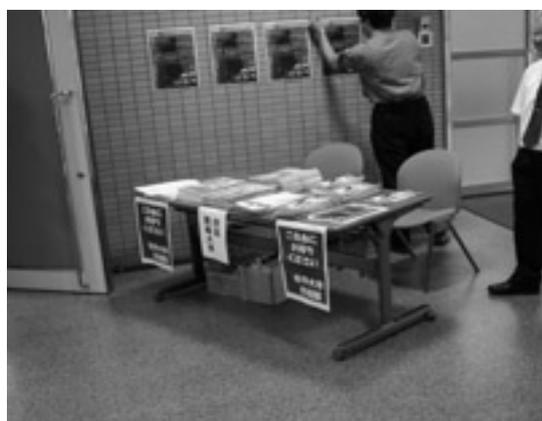


口頭発表は発表15分質疑応答5分でおこなわれ、おおむねスケジュールどおりに進んでいた。



ポスター発表には賞が設けられており視覚的（アピール度的）基準で参加者が投票し懇親会の席で表彰されていた。

（次期開催大学の宣伝）



受け付け付近に次期開催大学の宣伝用の席が設けられ自大学のPRを行っていた。

また1日目の口頭発表後に PowerPoint を利用して宣伝する時間を設けていた。

（情報交換会）



長谷川照佐賀大学長もご臨席され、鏡割りなど盛大に交流会が催された。

### <今後の予定>

17年度	
4月	実行委員会発足
8月	ポスター（案）作成 開催予定日の決定 広報内容検討
9月	平成17年度機器・分析技術研究会視察
1月	ホームページ公開
3月	ポスター印刷
18年度	
開催 5ヶ月前	開催要項発送 参加申込み受付開始
開催 3ヶ月前	発表申込締切
開催 2ヶ月前	プログラム作成 報告集編集・印刷
開催 1ヶ月前	参加申込締切 名簿作成
開催当日	平成18年度機器・分析技術研究会
開催後2 ヶ月程度	実行委員会解散

### <さいごに>

可能な限り多くの方々にご協力及びご参加いただき平成18年度機器・分析技術研究会を開催したいと思っておりますので、ご協力願える方は藤高までご連絡をお願いいたします。

また佐賀大学主催平成16年度機器・分析技術研究会へ出席させていただきました事と、平成18年度機器・分析技術研究会を広島大学にて開催させていただき事を前向きにご検討いただきました技術センター関係者の皆様に心より感謝いたします。

### 参考文献

山田 等, 平成16年度機器・分析技術研究会特別公演「機器・分析技術研究会」10年の歩み